

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技 I	単位数	1	コマ数	23	学年	2
<b>教科目標</b> 認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。臨床実習前の技能・態度の評価も含む。							
講 義 内 容	1	オリエンテーション。認定実技の流れ説明					
	2	腓骨損傷評価法					
	3	上腕二頭筋長頭腱損傷評価法					
	4	ハムストリングス損傷評価法					
	5	大腿四頭筋打撲評価法					
	6	膝関節側副靭帯損傷評価法					
	7	膝関節十字靭帯損傷評価法					
	8	膝関節半月板損傷評価法					
	9	下腿三頭筋損傷評価法					
	10	足関節外側靭帯損傷評価法					
	11	アキレス腱断裂評価法					
	12	アキレス腱断裂 クラメル固定法					
	13	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定法					
	14	膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ固定法					
	15	足関節外側靭帯損傷 バスケットウィーブテープ固定法					
	16	足関節外側側副靭帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定法					
	17	問診、誘導、評価(腓骨損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムストリングス損傷)					
	18	問診、誘導、評価(膝関節半月板・側副靭帯・十字靭帯損傷)					
	19	問診、誘導、評価(大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷)					
	20	問診、誘導、固定(足関節外側側副靭帯損傷固定)					
	21	問診、誘導、固定(アキレス腱断裂固定)					
	22	問診、誘導、固定(膝関節側副靭帯損傷固定)					
	23	評価～固定全般の復習					
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
評価方法		実技試験による。					
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
そ の 他	治療院勤務歴等、豊富な指導者により、様々な症例に応じた具体的な施術指導を行う。						
参 考 図 書	書籍名		著者名		発行所		
	柔道整復学 理論編		(社)全国柔道整復学校協会		南江堂		
	柔道整復学 実技編		(社)全国柔道整復学校協会		南江堂		

単位認

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅱ	単位数	2	コマ数	45	学年	2
<p>教科目標</p> <p>認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。臨床実習前の技能・態度の評価も含む。</p>							
講 義 内 容	1	オリエンテーション、認定実技について					
	2	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	3	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	4	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	5	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	6	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	7	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	8	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）					
	9	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）					
	10	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）					
	11	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）					
	12	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）					
	13	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）					
	14	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）					
	15	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）					

評価方法	実技試験による。		
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	

単位認

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅱ	単位数	2	コマ数	45	学年	2
教科目標  認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。臨床実習前の技能・態度の評価も含む。							
講 義 内 容	16	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復(診療ベッド)					
	17	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復(診療ベッド)					
	18	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	19	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	20	肘関節後方脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	21	肘関節後方脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	22	整復法総復習					
	23	定型的鎖骨骨折 固定					
	24	定型的鎖骨骨折 固定					
	25	上腕骨骨幹部骨折 固定					
	26	上腕骨骨幹部骨折 固定					
	27	コーレス骨折固定					
	28	コーレス骨折固定					
	29	肩鎖関節上方脱臼固定					
	30	肩鎖関節上方脱臼固定					

評価方法	実技試験による。	
評 価 基 準	新 評 価 A )	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80~89点):教科目標達成において優れている。
		C(70~79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60~69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。

単位認

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅱ	単位数	2	コマ数	45	学年	2
<p>教科目標</p> <p>認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。臨床実習前の技能・態度の評価も含む。</p>							
講 義 内 容	31	肩関節前方脱臼固定					
	32	肩関節前方脱臼固定					
	33	肘関節後方脱臼固定					
	34	肘関節後方脱臼固定					
	35	第5指中手骨頸部骨折固定					
	36	第5指中手骨頸部骨折固定					
	37	下腿骨骨幹部骨折固定					
	38	下腿骨骨幹部骨折固定					
	39	肋骨骨折固定					
	40	肋骨骨折固定					
	41	手第2指PIP関節背側脱臼固定					
	42	手第2指PIP関節背側脱臼固定					
	43	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習					
	44	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習					
	45	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習					

評価方法	実技試験による。		
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
そ の 他	治療院勤務歴等、豊富な指導者により、様々な症例に応じた具体的な施術指導を行う。		
教 科 書 及 び 参 考 図 書	書籍名	著者名	発行所
	柔道整復学 理論編	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂
	柔道整復学 実技編	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅳ	単位数	2	コマ数	45	学年	3
<p>教科目標</p> <p>認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。</p>							
講 義 内 容	1	オリエンテーション、認定実技について					
	2	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	3	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	4	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）					
	5	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	6	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	7	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）					
	8	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）					
	9	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）					
	10	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）					
	11	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）					
	12	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）					
	13	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）					
	14	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）					
	15	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）					

評価方法		
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。

単位認

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅳ	単位数	2	コマ数	45	学年	3
教科目標							
認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。							
講 義 内 容	16	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復(診療ベッド)					
	17	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復(診療ベッド)					
	18	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	19	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	20	肘関節後方脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	21	肘関節後方脱臼の背臥位による整復(診療ベッド)					
	22	整復法総復習					
	23	定型的鎖骨骨折 固定					
	24	定型的鎖骨骨折 固定					
	25	上腕骨骨幹部骨折 固定					
	26	上腕骨骨幹部骨折 固定					
	27	コーレス骨折固定					
	28	コーレス骨折固定					
	29	肩鎖関節上方脱臼固定					
	30	肩鎖関節上方脱臼固定					

評価方法		
評 価 基 準	新 評 価 A P G (	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。

単位認

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅳ	単位数	2	コマ数	45	学年	3
教科目標							
認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対する接遇を身に着ける。							
講 義 内 容	31	肩関節前方脱臼固定					
	32	肩関節前方脱臼固定					
	33	肘関節後方脱臼固定					
	34	肘関節後方脱臼固定					
	35	第5指中手骨頸部骨折固定					
	36	第5指中手骨頸部骨折固定					
	37	下腿骨骨幹部骨折固定					
	38	下腿骨骨幹部骨折固定					
	39	肋骨骨折固定					
	40	肋骨骨折固定					
	41	手第2指PIP関節背側脱臼固定					
	42	手第2指PIP関節背側脱臼固定					
	43	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習					
	44	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習					
	45	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習					

評価方法			
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
		単位認	
そ の 他	治療院勤務歴等、豊富な指導者により、様々な症例に応じた具体的な施術指導を行う。		
教 科 書 及 び 参 考 図 書	書籍名	著者名	発行所
	柔道整復学 理論編	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂
	柔道整復学 実技編	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂

# ＜2022年度カリキュラム 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名	柔整実技Ⅴ	単位数	1	コマ数	23	学年	3
教科目標 認定実技試験合格のための患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、患者に対するの接遇を身に着ける。							
講 義 内 容	1	オリエンテーション。認定実技の流れ説明					
	2	腱板損傷評価法					
	3	上腕二頭筋長頭腱損傷評価法					
	4	ハムストリングス損傷評価法					
	5	大腿四頭筋打撲評価法					
	6	膝関節側副靭帯損傷評価法					
	7	膝関節十字靭帯損傷評価法					
	8	膝関節半月板損傷評価法					
	9	下腿三頭筋損傷評価法					
	10	足関節外側靭帯損傷評価法					
	11	アキレス腱断裂評価法					
	12	アキレス腱断裂 クラメル固定法					
	13	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定法					
	14	膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ固定法					
	15	足関節外側靭帯損傷 バスケットウィーブテープ固定法					
	16	足関節外側側副靭帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定法					
	17	問診、誘導、評価(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムストリングス損傷)					
	18	問診、誘導、評価(膝関節半月板・側副靭帯・十字靭帯損傷)					
	19	問診、誘導、評価(大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷)					
	20	問診、誘導、固定(足関節外側側副靭帯損傷固定)					
	21	問診、誘導、固定(アキレス腱断裂固定)					
	22	問診、誘導、固定(膝関節側副靭帯損傷固定)					
	23	評価～固定全般の復習					
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						

評価方法				
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">単位認</div>				
そ の 他	治療院勤務歴等、豊富な指導者により、様々な症例に応じた具体的な施術指導を行う。			
参 考 図 書	教 科 書 及 び	書 籍 名	著 者 名	発 行 所
		柔道整復学 理論編	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂
		柔道整復学 実技編	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂